

第37回東京兵庫県人会総会交流会

開催
テーマ

『ひょうごの縁、^{えにし}会うを楽しむ』

東京兵庫県人会の秋の恒例行事となっている総会交流会。第37回となる今年度は11月10日(火) 17時30分～20時45分、東京都文京区のホテル椿山荘東京で開催しました。

当日は、会員をはじめ兵庫県に縁のある方々、約400名にお集まりいただき、賑やかな雰囲気の中、ふるさとへの思いを語り合いました。

第1部

ふるさとの話題
(17時30分～18時30分)

《県政報告》

井戸敏三知事
から「県政報告」
として、兵庫県
の県政や近況が
報告されました。



井戸知事による県政報告

【概要】

●今年度は終戦70年にあたり、沖縄最後の官選知事である島田勲知事(神戸二中出身) 顕彰碑の除幕式、南あわじ市「若人の広場」での戦没学徒慰霊式典などの行事を開催した。

●震災から20年となる1月17日には、20年追悼式典を開催し、天皇・皇后両陛下にご臨席を賜り、陛下からはこれまでの兵庫の復旧・復興の歩みに対してねぎらいのお言葉をいただきました。

●これからの復旧・復興は「風化」「高齢化」「街のにぎわいづくり」の3つの課題に取り組む。まず、「風化」には、「忘れない」「伝える」「活かす」「備える」の4つのコンセプトをもとに県民総参加の活動を展開。「高齢化」には、見守りなど適切に対応していく。「街のにぎわいづく

り」には、神戸県民センターを神戸市の施設とあわせて長田に移転することを考えている。また、三宮の再開発にもしっかりと構想を固めて進めていきたい。

●ポスト震災20年の兵庫においては、「安全・安心の確保」を県政推進の第1に位置づける。また、「地域創生」にもしっかりと取り組む。人口減少・少子高齢化が進む時代にあっても、活力を維持し続けなければならぬ。東京にいらっしやる皆さんに、もう一度ふるさとに戻りたいと言っていただけのような地域づくりをしていきたい。

●「ふるさと寄附金」へのご協力をお願いします。兵庫県は「筋義手バンク」のように寄附金のテーマを明確にして活用しています。ぜひご協力をお願いします。

《講演》

前東大総長で放送倫理・番組向上機構の濱田純一理事長から「若者と大学、メディア」と題したご講演をいただきました。



濱田理事長による講演

【概要】

●「教える」「学ぶ」というコミュニケーションの場であり、その実践の具体的な場所・技術的媒体という

意味において、大学もメディアである。

●最近の学生の特徴として、大学入學時の目的意識の低さ、学習時間の少なさ、専門外の本の読書傾向の低下、議論できる友人の少なさなどの傾向が見られる。

●学部教育では「国際化」「実質化」「高度化」を柱とした総合的改革を進めてきた。国際体験などを通して「よりグローバルに、よりタフに」をコンセプトに学生の育成を目指している。

●最近の若者については、情報圏・生活圏が小さくまとまる傾向や、社会へのかかわりの薄さ、コミュニケーション力の弱さなどが危惧されているが、「幅広い学び・経験」「公共的なものに関わる経験」「試行錯誤」「横道にそれる余裕」などを通じ、大学での学びを一生役立つものにしてほしい。

第2部

総会交流会
(18時40分～20時45分)

《総会》

太田颯衣幹事長から、議案の「平成26年度事業報告」「平成27年度



太田幹事長からの議案説明

